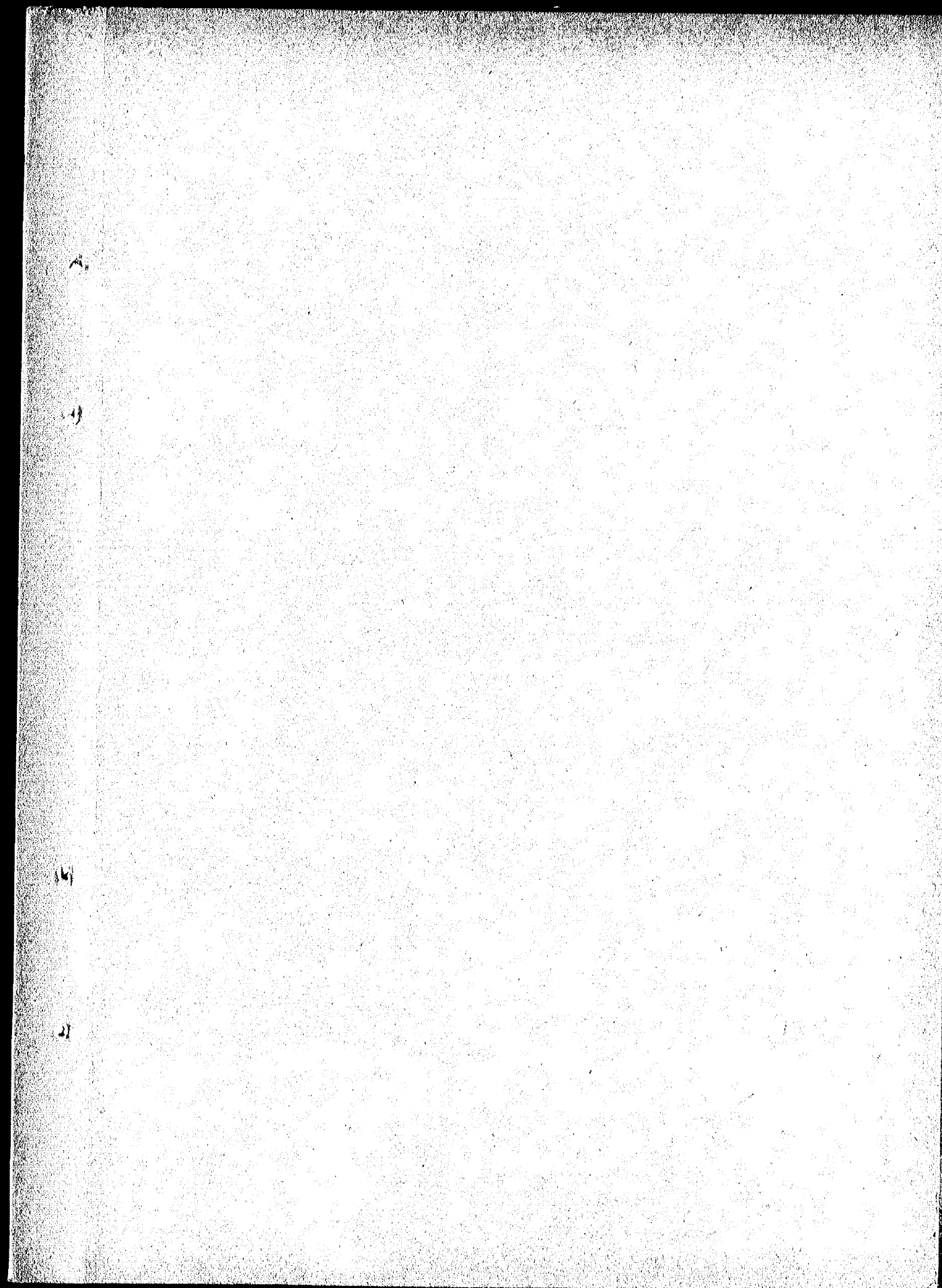


0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

昭和十九年一月十九日

通信検閲より見る最近の食糧事情と国民思想の動向

国立公文書館	
分類	416.3.28
	(返) (育)
	3 A
排架番号	15
	7-9-19



大日本帝國政府

極秘

通信檢閲より見たる最近の食糧事情と
國民思想の動向

一九二九年

警保局外事課

最近通信檢閲に於て特に目立つて來てゐるのは、主要食料品特に飯米不足を訴へるもので、これに關聯して厭戰的記述をなすもの、或は政治不信を強調するもの等も見受けられる。特に關取引價格は漸次著しい昂騰の傾向を示して居り、相當注意を要する狀況である。

此處に列擧した事例は、東京近邊より支那滿洲等に宛てた所謂外國郵便中、昭和十八年十月以降のもので、通信量より見れば、ほんの一部分から擧出したに過ぎない。さうして之等は、何れ

国立公文書館	
分類	③ ④
配架番号	3 A 15 7-9-19

裏面白紙

大日本帝國政府

も臨時郵便取令に基き、送達停止或は遡付等一應の取締措置を加へたものである。

食糧不足と厭戦気分

現在通商検閲に現はれて来る不平不満の大半は、主要食料品の不足に依る食生活の不如意をかこつものと云ふことが出来る。即ち体位の底下若くは健康保全、療病の困難等を述べ、或は飢餓感を訴へ、延ては、戦争の速かなる終結を待望し、又は戦争の惨禍を強調する等厭戦感を記述するものも尠しとしない。

「今は何も彼も配給制度になつて充分には渡らない。少しでも人より多く食べやうと思へば闇で買つて食べるより外はない。今一番困るのは米です。二食分しかない。代用食と云つても

大日本帝國政府

何もない。田舎からは二貫目までしか持ち出せず、結局闇で買ふ外なく、食ひ物屋も休みばかり、そして腹にこたえる物は何も賣つてゐない。實に人間がガツガツしてゐる。

此の分で後一年も續いたら、自然營養不良になり、又病氣になつて死ぬ率が多く、餓死同様になるでせう。一層のこと爆弾でも落ちて、一瞬ひに死んだ方がよいと思ふことがあります。

今病氣になつたらあはれです。一日かゝるものは十日かゝり、年寄りにはバタバタいきます。(東京女)

三 東京の生活も慘烈なものです。これで空爆でも襲れば目茶苦茶でせう。ですから表面は米英打倒を叫んで居りながら、内

大日本帝國政府

面厭戰思想を多分に含んで居ります。

人間の氣持も萬事淺ましくなつて、人間らしさ、萬物の靈長さ、威張りながら、それも失はれてゆきつゝあります。(群馬男)

毎日胸がへつて、腹の虫がグウグウ言つて、氣持が悪くて眠れません。早く戦争が終つて呉れなくては、國民は飢餓のため皆病氣になつて、精神的にも駄目になつてしまひます。ツクヅク生きることが嫌になつて仕舞ひます。(東京男)

東京の物資不足は一日々々目立つて参りました。米の足りないことは先づ解になりません。大抵は一日二食になりましたが、代用食も餘々配給して貰へず、まだまだもつともつと時局は窮屈になるばかりでせうけれど、これでは健康者も營養不良で、

大日本帝國政府

どんどん病氣して死ぬことでせう。戦争はどこまでも榮^栄ります
ね。(東京女)

東京は全くみじめなもので、配給ばかりで子供や病人は可憐想
です。お米が不足なため買ひ出しに行きますが、今度はそれ
も出来ません。

食べ物が不足で東京の人はかつえてゐます。早く戦争が終らな
いと困ります。(東京女)

軍官富裕階級の特權行使

右の如き物資不足に基因する厭戰的通信が更に發展して軍、官、
富裕階級が統制をくゞつて、何等不自由なき生活をなす等刺激的
記述をなすものも散見せらる。

大日本帝國政府

→ 東京の生活は誠に情けない状態にて、米の代りに干し餛飩の配給、朝から晩まで餛飩です。砂糖も餛飩もない。薄い醤油をかけ、て饅頭をつないでゐる次第です。

伊太利が停戦を發意したら、群衆が、たいもう譯もなく喚聲をあげたと囁ひますが、人間も食が詰まれば譯が解らなくなり、伊太利國民は屹度牛肉とパンが食へることに思はず叫んだのだらうと思ひます。日本でも所謂時局便乗者や特權階級が飽食して、中産階級が滅亡する時が目に見えます。此の調子で進めば必ず來ます。

現在の中産階級の生活では、如何なる家庭に於ても、配給食料品で最低限度に足りるものは一軒ありません。故に脊に腹は

裏面白紙

大日本帝國政府

かへられず、無理算段をして關にて食料品を手に入れる。日曜には一家總動員して近縣の百姓家へ買ひ出しに出かける。こんな調子で三、四年も續けばもうお仕舞です。(東京男)

(三) 配給制廢は決して公平圓滑に行はれて居りません。ラジオや新聞では世間体のよいことばかり言つて居ります。「乏しきを憂へず、均しからざるを憂ふ」と申しますが、現今は全く「均しからず」です。

物資が少ければ少い機に、全都民に公平に配給せらるゝなれば、雖しも不平や不満は申しません。然るに大官の物置小屋には砂糖袋が何俵も積み上げてあつたり、或る高官の臺所の床下には水菓子や野草物が一杯詰めてあつたり、上層の人の多くは闇や

大日本帝國政府

顔で、何の不足もなく日を送つて居り、口だけは世間並に、時局下我儘して此の難局を乗り切れと講演してゐる。實に馬鹿々々しい。其の上債券は賣りつけ、定額貯金を割當て、下層の者はヘトヘトになるばかりだ。(東京男)

三 懐惚苛烈なる段階に突入せる昨今、国力總結集、國民一家の苦痛を味ふべき時に於て、特殊なる職權者又は指導階級とも稱せらるゝ有産階級に於て、公々然と此の統制を破り、涼しい顔して飽食暖衣する姿は苦々しき限りに御座候。(新潟男)

四 最底の生活が保證されるなら文句は言はない。足らざるを憂へはしないが、均しからざるを大いに憤慨する。爲政者もさぞ辛からうが、配給の桶に當る役人と軍人が此んな御時世に、不自

大日本帝國政府

由を知らん顔して、自分等だけうまくやつてゐるのが無慚に腹がたつ。こんな御時世であるだけに、上下一様に乏しいなりに
 明朗であつてほしい。（東京男）

政治不僵

又斯る物齎不足の原因は、結局政治の貧困に依るものである。さなすものに次の如きものがある。

一外も危機だが國內がもう目茶苦茶だ。何の理念もない政治屋が、
 時局乗り切りの名目で國民から徴した血の出る機な金で政治の
 闇を働いて、全く政治道徳の類腐その極だ。米はない。物資の
 全面的窮乏に都會の大衆は正に飢えてゐる。一ヶ月の内半月は
 芋とか、餛飩とか代用食をしてゐるが、何しろ量が少いからや

大日本帝國政府

り切れない。

生産陣は勤勞大衆の精神的サボタージュで全然能率上らず。感激のない政治は危機を一層深刻化して行く。

今の日本はまるでカイゼル獨逸そのまゝだ。(東京男)

最も恐ろしいことは國民生活時に消費生活に就ての不均衡から来る、國民一般の生活に對する不満だと思ひます。

一部上層階級に於ける特權行使、金權行使に依る物資の偏在は、薄給になやむ中層階級にとつて鋭い批判の對象となつてゐます。足らざるを憂へず、均しからざるを憂ふ、さう云ふことを成はれてゐるかも知れない。

今の偏政者は、一体何を考へてゐるのか知らざ思はれる節があ

大日本帝國政府

ります。 (東京男)

(三) 都廳や農商省の此の方面の局長や課長が、果して割當ての二合三勺のお米を、おさつや小麥粉で差し引かれ、三日も四日もおさつや餛飩で辛抱してゐるが、決戦下局長や課長も配下の統制會社から食料品を贈り廻られるとは考へません。

野菜は野に満ち、持たぬ者が持てる者に無心に行く、これが悪いと云ふなら生活に必要な最少限度を確實に配給したら。輸送力が不足で出来ないと言ふが、買ひ出し部隊が一日で三千買運んだ。つまりお役人に出来ないことも、市民は輸送力を充分利用してゐる。

結局身を以て當る役人がないからです。 (東京男)

大日本帝國政府

飯米の關取引と關價格の昂騰

最近關取引價格（公定價格に對して國民價格とも造言せられてゐる）が昨年の四、五月頃のそれに比して著しい昂騰を示してゐる。飯米についてみれば、米三俵千圓と云ふが如きは單なる流言又は例外なりとするも、飯米不足の一時變ぎに一升又は二升或は一斗二斗と云ふ數を一升につき二圓乃至五圓程度で賣買するが如き記述をなす通信は相當多數に上り、食糧價格の安定が一般物價政策の焦點でもあるだけに注意を要するものと思はれる。

〔東京の生活は愈々窮屈です。物資不足は生地獄だと言はれてゐます。此の頃關でなく物が手に入るなんて言ふのは嘘でしかありません。關で勿論結構だから物がほしいと皆わめいて居る有

大日本帝國政府

様です。代用食として甘糖、飴餠、乾パン等が配給されますが皆米が食べたい、米が食べたいと言つて居ります。副食物等なくとも我慢出来るが、米だけは何とかして満足するだけ食べたいと言つて居ります。

東京の酷をしても知らない人は仲々本當とは思はぬ様です。尤も金があつて闇の出来る人は餘り痛痒を感じて居ない様です。

(東京男)

(二)内地でもお米は三俵千圓もするし、砂糖は一貫目四十圓もするのです。お正月の糯米も一升五圓は安いので、だんだん満洲の物價と同じになつて参ります。

どこまでも百姓の世の中で、百姓は金持ちとなります。月給取

裏面白紙

大日本帝國政府

りはいくら取ったからと云つて、これで生活出来ること云ふことはありません。空腹を感じない様に生活するにはいくらあつてもたまりません。ごともやり切れません。(千葉女)

(三)世間の人と同じ様に、近頃では夜は大抵お粥と云ふことにしてある。米は益々不足する一方であるから、最近の闇相場は一升三圓は普通で、高く出す人は四圓も五圓も出す人があるさうで仲々深刻になつて來た。(市川男)

(四)東京も米の不足には困つて居ります。物資の不足は話の外です。此の儘半年も續いたら内亂でも起きそうです。

子供のある人は舊田舎へ田舎へと追はれて行きますが、私の様に田舎のない者は苦しい乍らも動かないで居ります。(東京女)

大日本帝國政府

(五) 食糧不足のため色々な出来事があります。

此の間荒川で子供連れの女の人が薩摩芋を買つて来たのをお巡りさんが取り上げたんですつて。そしたら其の女の人はおこつて、お巡りさんに何か言つたら「そんなにグズグズ言ふなら死んで了へ」と言つたんださうです。さうしたらその人はほんとうに子供と一諸に川の中へ飛び込んで死んでしたつたさうです。お巡りさんも人を殺した様になつたので自分も自殺したと云ふことです。(東京女)

(四) 十月頃九十九里で米を一斗十八圓で買ひ、やかましくて一匁には持つて来られませんから、先月賣さオトシと二人で七升、其の外にメリケン粉一貫目五圓、南京塩三升卵百ヶを十五圓で買

大日本帝國政府

つて來ました。まだ三升積めてありますから、その内細長い袋に入れて帶上げにして横腹に巻きつけて持つて來る心算です。とても調べられるので恐ろしい思をして來るのですが、八月から私は二度、オトシは五度、貴は三度高い關で買つて來ましたが、運よくまだ一度も調べられません。

油一升十二圓、糯米七升二十一圓で買つてありますが、十二月はきびしいさうですから、一月十日過ぎに取りに行く心算です。

(東京女)

(七)配給品以外は法外な關値でなくては手に入らず、貧乏人が病氣になつたら、死ぬより外に途はありません。

卵一ヶ三十錢 砂糖一貫目八十圓——百圓

裏面白紙

大日本帝國政府

種別	數量	昭和十八年四月頃	昭和十八年十二月頃
米	一斗	一五圓——二〇圓	◎二〇圓——五〇圓
糯米	一斗	二〇圓——三〇圓	◎五〇圓——六〇圓——八五圓
醬油	一升	四圓——一五圓	五圓——一〇圓
味噌	一圓		七圓——八圓
砂糖	一貫	二〇圓——三五圓	◎五〇圓——八五圓——一〇〇圓
油	一升	一〇圓——一五圓	九圓——一二圓
甘薯	一貫	一圓五十錢——二圓	◎二圓五〇錢——五圓
卵	一ヶ	二〇錢——三五錢	◎二五錢——五〇錢
牛肉	百匁	五圓	◎一五圓
小豆	一升	五圓——一〇圓	三圓——一〇圓
海苔	一帖	九五錢——一圓五〇錢	一圓

關取引價格比較表

東京ニ於ケルモノニシテ何レ
 ◎普通價ニ現ハシタルモノ
 ◎印刷機シタルモノ

裏面白紙

大日本帝國政府

鯉	鯊	酒	林	木	石	衣料切符	洋	靴	ソーセージ	落花生	鶏肉	バター	コンビーフ
一貫	百匁	一升	一ケ	四貫匁	一ケ	百點	一着	一足	一本	一升	一羽分	一ポンド	一罐
四〇圓——五〇圓	一圓五〇錢	一五圓——二〇圓	二五錢——五〇錢	一〇圓——二五圓	一圓——二圓	二〇圓——三〇圓	三〇圓——四〇圓	七〇圓——八〇圓	八〇錢	四圓——五圓			
◎六〇圓	◎一圓八〇錢	◎二〇圓——五〇圓	三〇錢	一五圓	◎三圓——六圓	二〇圓——一〇〇圓	三〇圓	◎八〇圓——一三〇圓			一五圓——三〇圓	一二圓——一六圓	二五圓

裏面白紙

大日本帝國政府

といつて來た。それにしても、米は闇で一升六圓は安い方で
所によつては七、八圓するとのこと、これでは何としても普
通ではやつて行けないのが當然のことだ。(葛飾 男)

(二) 斯る窮状は食糧獲得に手段方法を選ばざるに至り、之が價格
を法外に引揚ぐる結果となり、従つて一般物價は必然的に附隨
高騰し、貨幣價值の著しい低下を示現するに至れり。

(1) 闇取引だと米一俵二千圓三千圓といふ騒ぎだ。何でも同様
でお金なんか山程積んでも駄目だ。何かにつけてこんな状態
だ。(大森 男)

(2) 花粧石鹼一ヶ十五圓、紙幣の價值なんかレツテルみた様な

大日本帝國政府

ものです。今君が内地に歸れば吃度驚くでせう。街には物を
賣る店などありません。穴と表戸を閉めた家だけです。毎日
の米は肥料にする大豆粕と、妙な麥と、昔の蓬萊米のカクテ
ルです。ですから、時々間違つてうまいものでも喰ふと忽
ち胃癰癰です。ともあれ、毎日すき腹で、生きたそらはあり
ません。(品川 男)

(8) 東京邊の大部分の人は徴用はいやだ、農薬はいやだといふ
のです。上層階級の人々も、口に國策を言ひ戦力増強を唱へ
ますが、行爲や概念は依然として私利追及であり、自己榮達
であります。最も悪きは、國策や戦力増強を旗じるしとして

大日本帝國政府

私利私腹を肥やす人々です。而もこれが多いのです。

一方に徴用をのがれんとし、又一方には徴用を利用し安い勞力で収益せんとし、或は徴用工を澤山集めて仕事も與へず、明日の用意と、國策に協力する目先の證據としてゐるのです。此の國難に際しても猶私利追及を營む者を嚴罰する必要があります。

商人は大小共存在の理由がなくなりさうです。商人の動かす物資がありません。民需は全面的に無くなります。軍需の移動には商人の必要はなくなります。貴族、金持、商人等の階級はも早没落する外ありますまい。

大日本帝國政府

金あるが故に遊食する事も許されませんし、又金の力は追々
なくなります。

悪性インフレは大藏大臣以下防止に大奮ではありますが、紙
幣の発行は増加し、物は無くなるのですから防止は出来ませ
ん。たゞ暫く延期する程度です。昔は小判を口にして死んだ
といふこともあります。近い将来には紙幣に痰を吐いて死ぬ
人間が起ると思ひます。止むを得ない事です。大雨が降れば
川の水が増加すると同じことです。自然のなり行きです。貨
幣に強制通用力はないのです。遽からず年金に依つて衣食し
てゐた階級は生活出来すまい。樂院居の御老人は子女の世

大日本帝國政府

話になり、勵めるだけ勵く外ありますまい。

小賣商、問屋、大商社、貴族、金持、年金生活者等の没落して行く有様が目に明かに映つて來ます。(目黒 男)

(三) 右の如き經濟事情は庶民階級の生活に重壓を加へ、精神的には既に行動化の域に近接しあるものと認めらるゝもの妙しとせず。

(1) 子供に御飯を食べさせ辨當を持たせてやりたいばかりに雑炊食堂に行きます。食堂の前に並んだ人々は、お互に色々と泣言をいひあつて共鳴し、同感してゐます。民の聲ともいふべき苦痛が十人が十人此の様な心持ではと思ひ、又近所の人

大日本帝國政府

達の日常の生活を見る毎にあればと悲みます。

今は政府と軍部の世の中、民衆は哀れなものです。物資の備在、鐵道の我儼勝手を悲みつゝも生きぬかねばならない。今死んでは癪だと申します。

政府要人、軍の人々の毎日の使用品から三度の食事迄赤裸々に見たいもの、そしてどんな心持がするか。(淀橋 女)

(2) 兵器の不足もさること乍ら、食料の不足も相當なものです。今年は今冬枯時以來各家庭の野菜配給は三日に一度、家族二、三人の家族では二錢位で、これではどうしても生活が立行かず、買出しに行かねばならず、近郊の農家では入り込む都會

大日本帝國政府

人のために非常に高い價格で、米騒動の様なものが起るので
はないかとさへ思はれます。

食料の不足といふものはこんなにも強く市民に響くものかと
思ひ恐しくなります。(目黒 男)

(8) 現に軍部あたりが多数の御用商人をブローカーに使用して
物資の蒐集に努めてゐる有様だ。闇をやるなら軍部へ行け：
……何と面白い言葉ではないか。工場でもブローカーを巧
く使へば相當の成績を擧げてゐる。

中野正剛の自殺も大官暗殺の陰謀であつた様に日本も仲々危
機を孕んでゐる。

大日本帝國政府

ある日本人になるなど思ひもよらない。野菜だつて苗の中にガツシリとした健苗にしかかない限り、その一生は惨めなものだ。現在赤坊をかゝへて心勞の限りを盡してゐる母親達のことを思ふと暗膽たるものがある。

僕らの赤坊は幸ひ小さいながら頑丈に育つてゐる。これは時たまにしても、配給以外の食糧が「顔」で這入る余恵を受けるのと頭腦だ。

併し自分さへよければなど、安閑として済ませるものではない。その氣持が、現在のよき日本人の大きな心勞負擔になつてゐる。政府の政治力の無力さに對する限りない焦慮だ。こ

大日本帝國政府

(四)

れがどうにもならんでは、日本は國內問題で完敗する。
「日本はもつとひどい目に會はなければいかん」と君は言ふ
が、日本人はこゝで一つ大きなショックに會へば、それを機
會に此のモヤモヤと、すくみあつたまゝ動きのとれなくなつ
てゐる國內狀態に重大な革新が行はれるだらうといふ、他力
本願的な念願をもつて、それを待つてゐる。

惜けない限りだがそれが實狀だ。(世田谷 男)

現下の經濟事情は一面に於ては、一部上層階層の生活事情を
羨望怨嗟し、或は爲政當局者の無爲無策を呪詛し、若くは積極
的施策を要望する形をとり、而して斯る傾向は漸次深刻濃厚と

大日本帝國政府

なりつゝあり。

(1) 魚も野菜も極く少量です。これで人間が生きて行けると政府の役人は思つてゐるのですから……

自分達は不自由のない生活をしてゐて、實際配給だけの生活の苦しみなんか知らないのです。

早く戦争が終ればよいと思ひます。古賀司令長官もたうたう殉職をさいましたけれど、此の頃の私は誰が死んでも何とも感じなくなりました。新聞に色々書いて居りましたが、あつとも感激致しません。(杉並 女)

(2) 健康の鍵は少食にありなどと、腹が空では戦が出来ぬとの

大日本帝國政府

要諦を解せず、國民の反感を買ふ駄辯を弄し、上皇室の御仁
慈を穢し奉る結果を知らず、大學教授が一般國民に郷土食を
奨励するが如き、余りにも實狀に添はぬ癡呆さに腹立つを通
り越し苦笑するの外無之候。

要は勝ねばならぬ今日、上は首相より草莽微臣に至る迄一様
の忍苦ならば何の不平ぞ、戦線に非ざる軍衙、軍需會社配給
機構に携はる下ツバ軍人官吏が充實せる生活をなし居る實情
を眼にし耳にし慨歎に堪へざる時も有之候。(淺草 男)

(B) 何といつても大問題は食糧で、此の頃では一般に戦争の話
はしない。二人寄れば食物の話、買出しを禁止してみた所で

大日本帝國政府

配給は全然變らず、却つて少い位、ほんとおかしなことだ
四人家族で野菜の配給が五日間に葱一本などといふ馬鹿げた
配給だから不平も出る。

これを戦争だからと一口に片づけてしまふ馬鹿げた役人や氣
狂連中が居るが、戦争だからこそ配給を確立して不平の根を
刈らなければならぬと思ふ。

結局買出しに行くより外はない。東京も三月以來買出しが禁
止状態で、少しの野菜を持つて來ても人殺しかんかの様な
取調べと態度をとられる。東京に居て買出しに行かぬ様な奴
は、必ず闇をして朝鮮人あたりから法外の値で買つてゐる譯

大日本帝國政府

だ。

此の朝鮮人問題は、今の所輕視されてゐる様だが、其の經濟的動きは油斷がならない。

どんな方法をしても物資を集め、砂糖一貫目百二十圓などといふ相場で賣つてゐる。或る軍需會社の重役が、妾を置くより安いから砂糖を買ふといふ様な話もある。驚いたことだ。

闇を國民相場といひ、これが鰻のぼりだ。これが出來ぬ階級は、腹をすかせて國債を買はねばならぬ。(澁谷 男)

(4) 大都市に於て稍々満足すべき生活は有産、有權、有閑階級の獨占する所、而して現在は如何なる正義漢と雖も配給物資

大日本帝國政府

のみにて生活し居るものは絶無にて、御想像以上のものあり
目下現實に生活の隘路をなし居るものは指導の貧困にあるも
のと考へられ候。

最近國民總躍起運動とか呼號して大運動を展開する由なるも
斯る事は關人のなすこと、疑ひ度候、東條首相、翼賛會、翼
賛政治會等の關人が、惡事にも等しき運動をなすとは、日本
も余裕綽々たるものか、さては又鈍感なるものなるか、誠に
恐れ入つたる醜態に有之候。(淀橋 男)

(6) 内地の新しい法規は想像もつかぬ程複雑化して來ました。
新体制とはたゞ上の者の職權を強化するばかりです。自由主

大日本帝國政府

義經濟がどうか、利己主義が何とかいつて、新体制を新しい夢にまつりたてたが、現實は古い社會制度の地盤の上に非常に強化された支配力を重ねたのに過ぎず、社會生活を一層どん底に陥入れる闇行爲を漫延さすのみです。

戦争をしながら、利慾のために國民を胡麻化して平氣である人間が半分以上居るとしたら、假令戦争が有利に進んだとしても、それは決して政治によるものではありません。

人の話はまるで食べる話のみで全く餓鬼道です。「戦争に負けてもよい食はして呉れ」といふ様なビラを電柱に貼つたさうですが、深刻胸に迫る社會想を、又日々の生活苦を如實に

大日本帝國政府

物語るものではありませんか。

大きな者は戦争の恩恵に浴して益々大きくなり、希望たつぶりを生活が出来て幸福なことでせう。(新潟 男)

(6) 東條首相が中學生の闘兵をした時、例に依つて一生徒の肩をたゝき「何が一番欲しいか」と尋ねたら、其の生徒は「羊羹が一本食たい」と答へた所、首相は「これで買つて食べろ」と五十錢札一枚を取り出して與へたさうです。

此の話は余りにも穿ち過ぎてゐますが、先日内務大臣が銀座の雑炊食堂で雑炊の試食をした記事が、寫眞と一諸に新聞に報道され、内相の感想として「これはうまい」と非常に感心

大日本帝國政府

し、業者を激勵してゐました。

勿論羊羹などは吾々庶民階級の口には何年も入らないし、又
毎日一杯の雑炊にありつくために、朝も粥で既にひからびて
しまつた空腹をかゝへて、一時間も前から必死に自分の順番
を待ちつゞける哀れな男一匹の姿を堪へないで、これはうま
いと簡単に片づけるのでは、折角雑炊腹で頑張らうといふ決
心も急に張り合ひ抜けがしてしまひます。

「足りないであらうが我慢して頑張れ」といふ一段と深い爲
政者の愛情を望むことは我儘過ぎるでせうか。兎も角これ等
は巷間にひろつた一例に過ぎませんが、戦時下の政治は勇斷

大日本帝國政府

兎に角、今尙時局に便乗し、又時局に名を藉つて利己的生活を營み、國民の憤激を買つてゐる特權者がざらにあるのです。戦時下故公正なる配給機構の下に於てならば、國民は喜んで困苦缺乏に耐えるでせうし、現在特權階級に對してなされつつある非難は、期せずして米英に對する敵愾心に轉移し發奮するでせう。

供出報償もよし、増産運動もよいでせうが、舊い觀念に立却した者共のなす此の運動は、更に新しい問題を生むに過ぎず。目先を變へた小手先の業たるを失はず、やはり軌道を敷設せずして汽車を走らせんとするの類に他なりません。

大日本帝國政府

思ひ切つて大劇場を閉鎖し、料理屋や待合を押えても、翌日から其の手をゆるめなければならぬ様では、舊勢力も馬鹿にならない。

かうした力の中では、どんな革新非常施策もうまく行かないので、しばんだ花に霧を吹きかける様に、雑炊食堂や國民酒場をやつてみても、斷じて霧以上ではあり得ないのです。

ともあれ、戦時施策はもつと地ならしをして、其の上に綿密な計畫を流して行くのでなければ滲透しない様です。

眞に戦争に徹する國內体制を築くため、日本民族の血をたさらず政治をなすには、現状は余りにも平穩に過ぎると考へる

0292

大日本帝國政府

に至ることは、ほんとうの危機です。(杉並 男)

備考(本件資料は四、五月中の外國郵便中より比較的特
異なものを抽出したるに過ぎず)

以上

裏面白紙